

東北大学関東良陵同窓会

秋季総会の「案内

初秋の候、会員各位には、益々ご清栄のことと大慶に存じ上げます。

さて、東北大学同窓会関東連合会秋季総会を下記により開催したいと存じますので、なにとぞ万障お繰り合わせのうえ、ご家族ご同伴にてご出席を賜りたくご案内申し上げます。

今回の総会では、特別講演を「河井継之助記念館」館長で作家の稲川明雄氏に『河井継之助の政治姿勢―改革にみる濟世思想―』（要旨後述）という演題でしていただきます。

当長岡市は、戊辰戦争と第二次世界大戦の空襲で二回焦土と化し、更に先の中越地震でも大きな被害を受けていますが、その都度復興への精神のより所は、「米百俵」に代表される維新の群像の精神でした。長岡の生んだそうした代表的人物の一人、河井継之助について話していただきます。尚、「河井継之助記念館」と「山本五十六記念館」は共に駅から歩いて十分ほどのところにあります。お知らせ頂ければご案内申し上げます。

晩秋の越後路もなかなか趣きがあります。ぜひお出かけ頂けますよう、心からお待ち申し上げます。

東北大学良陵同窓会

関東連合会 新潟支部長

丸岡 稔

(会費納入のお願い 本総会会費及び年会費の

ご納入を四ページ記載要領にてお願いします。)

記

一、期日 平成十九年十月二十七日(土)

二、場所 ホテルニューオータニ長岡
(JR長岡駅東口隣り)
〒940-0048

長岡市台町2-8-35
(電話0258-37-1111)

三、受付開始 午後四時より

四、総会 午後五時開会

- 一、開会の辞
- 一、経過報告
- 一、その他
- 一、閉会の辞

五、特別講演 演題『河井継之助の政治姿勢―改革にみる濟世思想―』

講師「河井継之助記念館」館長 稲川明雄氏

六、懇親会 午後六時三十分開会

七、会費 会員 八〇〇〇円
ご家族 七〇〇〇円(一人)

八、出席申込み 同封の振替用紙に会費と共に

十月十五日(月)までに
お申込み下さい。

秋季総会特別講演要旨

河井継之助の

政治姿勢

— 改革にみる

濟世思想 —

「河井継之助記念館」館長

稲川明雄

司馬遼太郎の歴史小説『峠』で紹介された長岡藩家老河井継之助の業績と人間性を紹介したいとおもいます。

河井継之助という人物は、幕末の長岡藩（石高七万四千余石、藩主牧野氏）に彗星の如くあらわれ、改革を断行し、北越戊辰戦争を勃発させて、最後は悲運の最期を遂げた人物です。

作家の司馬遼太郎は、河井継之助が日本近代史にあらわれなかつたら、日本の歴史が重層なものにはならなかつたと評価していますが、彼のとつた政治姿勢は、その後の長岡の歴史、日本の歴史に影響を与えたと言われています。

その河井継之助の政治姿勢の原点はどこにあつたのか、人間性がどう地域の文化や精神土壌に影響を与えたかを説明したいと思ひます。

人間は日々、心身を新たに生活をし、道を求めるものですが、それには環境というか社会体制に惑わさるる人が多いものです。

継之助は陽明学を学び、濟世思想を基点に改革を行つていますから、実践例を解説します。

略歴

稲川明雄氏

昭和十九（一九四四）年

新潟県長岡市生まれ

長岡市立互尊文庫司書

長岡市史編纂室長、長岡市

立中央図書館長を経て、

現在、河井継之助記念館長

長岡造形大学非常勤講師

長岡ケーブルテレビ顧問

著書に『河井継之助・立身

は孝の終わりと申し候』

『長岡城落日の涙』『長岡城燃

ゆ』『長岡城奪還』（恒文社刊）

『長岡藩』（現代書館刊）『龍の

如く』出版王大橋佐平の生涯』

（博文館新社刊）『互尊翁』（新

潟日報事業社刊）

共著に『米百俵と小林虎三郎』

（東洋経済新報社刊）など。

編著に『北越戊辰戦争史料集』

（新人物往来社刊）

平成十九年度良陵同窓会関東連合会春季総会開催

首題の総会は、平成十九年六月十六日（土）、午後四時三十分から、市ヶ谷私学生会館アルカデアで開催された。

本総会には、一時体調を崩されていた神津前会長も元気な姿で出席された。

また、秋季総会を主宰される新潟良陵会長丸岡稔先生はじめ群馬、茨城からも出席者があつたが、若手の出席者が少なく総勢三十名であつた。

高橋会長の挨拶では、関東良陵会は会員数一六二八名と東北大学良陵同窓会の中では、宮城県に次いで最も会員数が多いので、本総会出席者が会員数の二%では少なすぎる。若手にもつと関心をもつて頂く必要があるが、その対策として、インターネットの活用、若手にメリットのある会の運営などの提言があつた。

庶務報告として、事務局は高橋会長が杏雲堂病院から東

京都参与に転動したため、根本副幹事経営の大泉中央クリニク（東京都練馬区大泉学園六・二七・二）に変更になったこと、本年の秋季総会は、新潟県長岡市ホテルニューオータニにおいて平成十九年十月二十七日開催予定であること、百周年記念全学同窓会東京大会が平成十九年六月二十三日（土）に開催されること、女医会が平成十九年七月七日（土）F M Jet stream において開催されることなどについて報告があつた。

会計報告として岩瀬会計幹事から会費徴収率は約四〇%であるが、本年も若干の赤字決算であり健全会計であることが報告され、来年度予算案共々承認された。また、本年度は新しい名簿を本部のデータをもとに作成する予定である。次に秋季総会の準備状況について、新潟県良陵会長丸岡稔先生から報告があり、着々と準備が行われているので多数の会員の出席を期待し

ているという報告があつた。以上で総会を終了、引き続き竹内正也先生の特別講演「国際的医療支援・交流の経験ー日本の病院界の発展を希望してー」に移った。先生は現在全国公私病院連盟の会長を務められているので、現在の政府の低医療費政策の下での公私病院の抱える諸問題について、まず述べられた。続きカトリック教徒として、世界各地の医療支援・交流の経験のついてスライド写真を示しながら昨年スペインのバルセロナで行われた世界カトリック会議、アフリカ・ザイール訪問、中国北東部との医療交流、フイリッピン訪問など

について約一時間にわたる極めて感銘深いご講演を頂いた。写真撮影後会場を移動して会食、各人の近況報告に続いて、アフターデナーコンサートに移った。

今回は根本宏先生（昭四十一卒、本会副幹事長）とその師匠掃部彰子さんによる師弟のヴァイオリン演奏会が行われた。根本先生の演奏は練習の甲斐あり中々立派であつた。しかし、何と言つてもアンコールで演奏された荒城の月を神津康雄前会長（昭十九卒）がものすごい声量で絶唱され、一同盛り上がり最後の良い締めとなった。（文責高橋俊雄）

アフターデナーコンサート



根本 宏先生（昭四十一卒）と師匠の掃部彰子さんの息の合った演奏は聞かせてくれました。披露した曲目はバッハに始まり、リーディングエングレス、マスネーまで、年期の入った演奏で聴衆を魅了しました。特に最後の曲「ホルムベスク作曲の「望郷のパラード」」は、根本先生自身が大好きな作品だということもあり、故郷を捨てて流浪していく人の哀愁や、悲哀、別離してきた人々へ思い：それらが切なくやるせなさで迫る中にもういっぺん甘美さをただよわせた、心を打つ名演奏でした。（工）

東北大学創立百周年 祝賀講演会開催さる

表記会合が 六月二十三日
(土) 午後二時より神田・学士
会館で行われた。

全学同窓会関東支部総会の後、
井上明久総長より

「井上プラン2007」と東北大
学の次の100年」と題して、
「挑戦」、「創造」、「革新」をキ
ーワードとして、各学部の一層
の世界交流と世界リーディング・
ユニバーシティとしての世界中
の大学の中での評価のさらなる
上昇をはかる旨を示された記念
講演が行われた。

それに引き続き、瀨名英昭氏
(薬、平成二年卒、SF作家、
ロボット工学者、工学部機械科
特任教授) による特別講演

「百年後の未来を考える」で、
多くの分野で世界中のグローバ
ル化が進み、世界交流がますます
盛んになることを話された。

次いで大西副学長による百周
年記念事業についての話があり、
さらに庄子大学理事より、記念
事業基金が予定五十億に対して
70パーセント達成されたこと

などの報告があった。

祝賀講演会終了後、懇親会に
移った。前座として東北大学男
性OB合唱団による見事なアン
サンブルによる数曲の披露に続
いて、神津支部長の挨拶ののち、
二百名に近い参会者による各学
部同窓生同志の懇親の場が開か
れ、楽しい交歓光景がくりひろ
げられた。

約一時間半後の午後六時半、
恒例の神津先生の発声による
「荒城の月」の合唱に続いて、
大学校歌「青葉燃ゆる」を斉唱
の後閉会した。

医学部からの出席者は—
神津(昭19)、浦本(19)、永井
(29)、信田(29)、近藤(32)、
田家(32)、高橋(俊)(34)、林
(41)、根本(41)、依田(53)、
の諸先生、計十名であった。

会終了後、関東支部幹事十数
名が神津支部長を囲んで当初こ
の会開催について大学本部と多
少の意見の食い違いがあったに
もかかわらず大成功であったこ
と、また募金の半教近くが関東
支部関係よりのものであること
に大いに気炎を挙げた。

(昭29・信田記)

第十回関東良陵女医部会開催

平成十九年度女医部会は、七
月七日(土) 七夕の日、例年の
如く麹町F M Jet Stream 十
一階で十三名の参加者を得て開
催された。

午後五時から小林啓子先生の
ご紹介で、世界最高齢の女性国
際フリードライバー能城律子さ
んのご講演を頂いた。能城律子
さんは、一九三五年生まれ、三
十五歳時に子宮がんの手術、四
十三歳時に乳がん手術を受け、
その後、他側乳腺に転移し「余
命三年」の宣告を受け、両側乳
房を失った。一九七二年に世界
に先駆けてホテル内の託児所を
開設。病魔を乗り越えラリー参
加を決意し、トレーニングを積
み五八歳で国際A級ライセンス
を取得。一九九五年オーストラ
リアン・サファリに出場し完走
し、女性部門1位となった。六
十歳でパリ・ダガールラリーに
参戦完走を遂げ、一九九六年マ
スターラリー(パリ〜サマルカ
ンド〜モスクワ)に参戦。一万
キロもの過酷なコースを完走し
た。二〇〇〇年マスターラリー

でコースを逆走してきた車と正
面衝突。肋骨四本骨折、顔面打
撲等の重傷を負って緊急入院。

二〇〇四年イラクへボランティア
ア物資を現地に入り届ける。二
〇〇六年北海道増毛町の子供た
ちと交流、桜の木三〇〇本植樹
を行うなど、大変迫力のある講
演であった。講演終了後は、皇
居の美しい緑を眺めながら懇親
会に入り、各人の近況報告など
楽しい話に時を忘れ午後八時頃
散会した。今回は女医の他に高
橋会長、押田副会長、新田幹事
長、根本副幹事長も特別参加し
た。

会費納入のお願い

今年度会費三千円を同封の振替用
紙にてご納入ください。総会会費
も同様に願います。

東北大学良陵同窓会

関東連合会東京支部

〒一七八一〇〇六一

東京都練馬区大泉学園町六・二七・二

大泉中央クリニック内

電話 〇三(三九三三) 五六七八

FAX 〇三(三九三三) 五六一八

〇三(三九三三) 五六九八